

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2492100017		
法人名	有限会社 坂倉		
事業所名	グループホームとういん		
所在地	三重県員弁郡東員町鳥取1308番地1		
自己評価作成日	平成30年11月16日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kihon=true&amp;JigvoNoCd=2492100017-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kihon=true&amp;JigvoNoCd=2492100017-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 30 年 12 月 5 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>●地域との交流          ほぼ毎週ボランティアサークルの方が来てくださり、歌やダンス・腹話術・美容など様々なイベントで利用者様を楽しませてくれています。</p> <p>地域の中学校より「勤労体験学習」に、毎年5～6名の学生が来てくれています。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>運営推進会議には各地域の民生委員が多数参加されているし、地域のボランティア団体が毎週のように来てくれて利用者を喜ばしてくれている。近隣住宅との行き来は今ひとつだが、東員地区という広い範囲の地域との連携は確立されてきている。食事づくりも冷蔵庫の中を確認してから何をつくらうかと利用者や相談するなど、普通の家庭のように落ち着いた雰囲気のある事業所である。職員同士も仲が良く、何でも話し合えるし愚痴も言えるし又聞いてもらえると自慢する。家族からも何時行っても気持ちよく対応してくれるとお褒めの言葉もある事業所である。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議などで意識付けをしている。その人らしさ、以前の生活スタイルを損なわない支援を実践している。	設立以来の理念を玄関や会議室に掲げ、仕事をするうえでの「心構え」として事ある毎に話し、共有している。職員に対しても少し身近に感じる「今月の目標」のようなものを作ることも検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	社協や地域のボランティアサークルと意識して交流を行っている。現在毎週2日、イベントを開催している。	近隣住民との付き合いは少ないが、自治会にも入り地域のボランティアサークルとの連携も多い。また民生委員との付き合いも多く、地域で開催されるカフェサロンや集いにも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として、地域内の2つの中学校より勤労体験学習を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に開催し、メンバー15名余りに参集いただき入居者の状態や地域との交流等を説明し、意見を反映している。	ほぼ2ヶ月ごとに開催し、地域の老人会や民生委員、ボランティア等の参加を得ているが、事業所からの報告が多く、参加者からの意見が少ないのが悩みである。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者の確保や介護認定の情報等を通して協力をいただいている。	施設長代理が法人としての行政窓口になっており、管理者が出掛けることは少ない。各種届出や行政情報は窓口より入ってきている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしないケア」のマニュアルを作成し、マニュアルを基に禁止行為などを理解したうえで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所の前が交通量の多い道路であり、併設のデイサービスの利用者を含め安全のため玄関は施錠している。マニュアルに従い勉強はしているが、4月に法改正された身体拘束等の適正化に基づき、体制を整備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議などで「声の暴力」について重要性を発信し研修している。各利用者様への話し方や接し方なども確認し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は権利擁護制度の利用は無いが、行政のパンフレット等で必要性について話し合い今後に備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に当っては「ご家族の皆様へ」の入居案内や「終末期ケア対応の指針」に至るまで読み合わせを含め、ご理解を得る努力を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプラン作成及びADLの変動等の機会にご家族とカンファレンスを行い「思い」を共有しケアに生かしている。	面会時や介護計画変更時には対話し、意見や思いを聞いているが、ケアの話が多く積極的な運営に関する意見は少ない。家族へのたよりの充実も含め信頼関係を高める努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや職員会議を通じ、意見を集約し施策に反映している。	併設デイサービス含めての職員体制のため、グループホームとしての職員会議を持つのが難しく、申し送りの時間を使っての会議になっている。	申し送りの会議だけでは限られた職員だけになってしまうので、月に1度は時間をやりくりし多くの職員が集まり、介護計画の策定ははじめ事業所運営上の各種主旨徹底や意見交換の時間をもたれることを検討願いたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望を第一に、日勤・夜勤両方できる職員は両方をバランスよく勤務に入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他の事業所の見学や外部研修会には参加を奨励し、研修報告書は職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入居者の情報交換や、行政主催の勉強会の場を活用して認知症対応の取り組みの参考にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談書を活用して、入居前の状況や困りごと等を収集し、ご本人の安心感づくりに取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居して3カ月間は毎月ご家族とカンファレンスを行って、ご本人の状態や要望などをうかがって対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居当初、内科医に認知症状の受診ケースが多い。お話をうかがいながら認知精神科医を紹介し、ご家族で判断してもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様のできる事を把握し、日々のケアを実践している。穏やかな日々が過ごせるよう場面作りや役割作りを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に本人を交えて家での生活や様子など、話を聞くようにしている。また家族との関係が保てるよう外出や受診時は同行してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域内外のボランティアサークルに毎月数回来て頂いている。地域のサークルの集いにご利用者本人が出かける事もある。	家族と毎週図書館へ行く方や盆・正月には在所に行かれる方、古い友人の訪問など、馴染みの場・人との関係継続に事業所も家族も努力している。今年の正月には3人ほど実家に帰る予定がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの席や居室など、その時々合った場を考慮し実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移られた入居者へ定期訪問し、その後の状態をフォローし支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に声かけをし、ご利用者様の思いを感じ取る事を心掛けている。変化など確認した時点でカンファレンスを行い、必ず申し送り等で情報を共有するようにしている。	普段の会話のときや1対1になる入浴時に、「～してほしい」とか「～が欲しい」とかの話が出る。またその人その人の得意なところを生かした絵や脳トレなども日常生活の中に取り入れ、生活リハビリとして介護計画にも入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談で情報収集を行っている。また面会時や、ご利用者様とのコミュニケーションから情報収集をする事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の状態や能力に応じて、現存機能を最大限に引き出せるよう自立支援を心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的には介護保険更新時、個別にカンファレンスを行いケアプランに反映している。大きな変化が起こった場合も関係者にヒアリングして反映している。	介護支援専門員が中心になり、利用者・家族に意見や医師・看護師の意見も取り入れ素案を作り、それを基に個別にカンファレンスを行っている。入居1年未満の方は3ヶ月ごとに見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の状態等は所定の用紙に記録している。気づきや変化などは日々の申し送り及びカンファレンス・家族カンファレンスで取り上げ、実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域のボランティアサークルの支援により、ご利用者のニーズへの対応力は向上している。また外出や面会時間は自由な形を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容師の方を運営推進会議のメンバーに紹介いただき、毎月来ていただきカットしてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	5年程、かかりつけ医と入居者の個別契約ながら月2回の往診をしていただき、体調変化の早期把握など支援をもらっている。	入居時の話し合いから3名は協力医で月2回の訪問診療を受けているが、他の利用者は従前のかかりつけ医を主治医としており、家族が送迎している。その場合の結果報告は事業所として漏れのないように聞いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在はショートステイと兼務の看護師に対応してもらい、勤務外でも電話で相談できる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	「傷病者情報シート」及び「介護サービス経過報告」等を利用し情報の交換に配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化及び終末期支援の指針」に基づいて入居契約時に話し合いをしている。ご本人・ご家族の要望に沿ったケアが提供できるよう、節目にはカンファレンスを実施している。	入居時に指針で事業所としてどこまで出来るかを説明しており、看取りそのものは出来ないとしている。その場合の施設入所の紹介はしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「緊急対応マニュアル」を制定し、すべての職員に周知徹底を司っている。防災訓練にも取り入れて繰り返し実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施している。毎回訓練内容は検討を加えて、マンネリ化の抑制にも配慮している。又、当日は外部来訪者にも参加を呼び掛けている。	地域の参加や消防署の立会いはないが、年2回の防災(火事・地震)訓練を行っている。指定避難場所は小学校だが遠いので事業所玄関としている。事業所裏に山上にある団地への坂道があり、大雨等による斜面の土砂崩れを心配している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人ひとりに合った声かけを心掛けている。対応についても職員全員が同じ対応が出来るよう、対応方法を書面にしたり申し送りノートなどに掲示している。	利用者一人ひとりに対する話し方や対応の仕方の指針があり、職員全員が同じ対応が出来るよう勉強している。また入浴時に異性介助を嫌う方もおられ、配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が選べるように提案し、ご自分で決めるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調も考慮し、一人ひとりの状態に応じて過ごし方の支援に取り組んでいる。入浴や食事など、時間をご利用者に合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服選びはご本人に選んでもらっている。月一回、美容ボランティアに来てもらい、ご本人の希望に沿ってカットしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はリビングで全員揃って食べてもらっている。下膳、台拭きなど出来る方にはお願いしている。	施設長が食材一括購入し、職員が一般の家庭のように冷蔵庫の中にあるものを確認し、料理が重ならないようにその日の料理を決めている。誕生日の特別食も外食や取り寄せでなく手づくりである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事形態・量を考慮して提供し、摂取の進まない方には声かけや介助をし、状態に応じて栄養剤も併用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医と連携し、きめ細かく口腔ケアに取り組んでいる。就寝前には義歯の洗浄を働きかけ、仕上げは職員が確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	体調不良による安静必要時以外はおむつは使用せず、できる限りトイレ誘導するよう支援している。排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握できるよう努めている。	排泄チェック表を作成し、一人ひとりの状況を把握しそのタイミングを見逃さないよう、職員みんなで努力しオムツは外しの支援をしているので、現在オムツ使用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方は特に毎日の排便状況を把握するよう心掛け、それでも出ない場合は看護師に相談し、服薬などの指導をしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の体調や気分を優先し、入浴してもらっている。時間や日にち、入浴順もなるべく希望に沿えるよう配慮している。	一般家庭より大きな浴槽で一人ずつゆっくりと週に2~3回入浴している。お風呂嫌いの方もいるが、その場その場の気分変換努力で入浴している。特に楽しむ工夫はないが、季節の柚子・菖蒲湯はある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安感や不眠傾向が見られる時は職員がある時間寄り添い、気持ちを静めて入眠されるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を専用のファイルに整理し、最新情報を全職員が共有できるようにしている。薬の変更があった場合は必ず申し送りで伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ボランティアサークルの方々に毎週のように来ていただき、一緒に楽しめる時間を提供している。掃除など職員と一緒にできる事はこちらからお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候が穏やかな季節には花見やドライブなど職員と出かけている。ご家族と受診などの機会に会食されたり、毎週図書館へ出かける方もみえる。	事業所周辺が通行量の多い道路であり、近くの散歩は難しく、ドライブを兼ねた遠出になってしまう。季節の花見の外出もしているが、年間外出行事計画をつくり、計画的に外出するよう考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いのシステムを全員の方が利用されており、買い物や外食の際にお小遣いから支払うよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ボランティアの方と描いた絵手紙を家族に出している。電話は内容により本人がかける事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクやイベント時にちぎり絵や絵画を制作し、共用スペースに展示し来訪者を含め楽しんでもらっている。カーテンでの調光など、ご利用者様で調節してもらっている。	東南の角部屋が食堂兼リビングであり、日当たりが良すぎてテレビが見えないと一部カーテンが閉めてある。職員や利用者の手づくりの作品が壁面に所狭しと貼り付けてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	絵画に関心の強い方には週1回ほど多目的ホールで思い思いに絵を描いてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	レイアウトは本人様と家族様に考えてもらっている。身体の状態に応じて家族様と相談し、快適に過ごして頂けるよう工夫している。誕生日の品等をご希望の所に掲示し、お部屋の演出のお手伝いをさせていただく。	大きなクローゼットがあるので部屋の中は比較的すっきりと整理整頓されている。壁面は自分の作品や写真等好みのレイアウトで飾られている。テーブル・椅子・テレビ等持込の方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ及び洗面所は部屋から出て、日常生活で極力移動範囲が広がるように配慮している。又、リビング及びトイレと居室の位置関係を状態に応じ柔軟に対応している。		